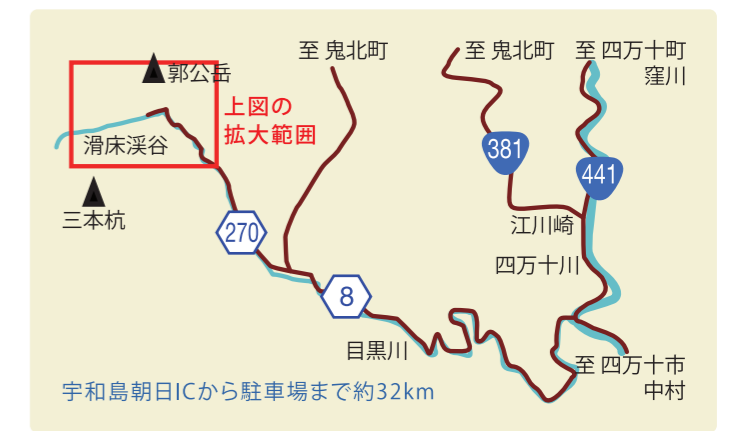
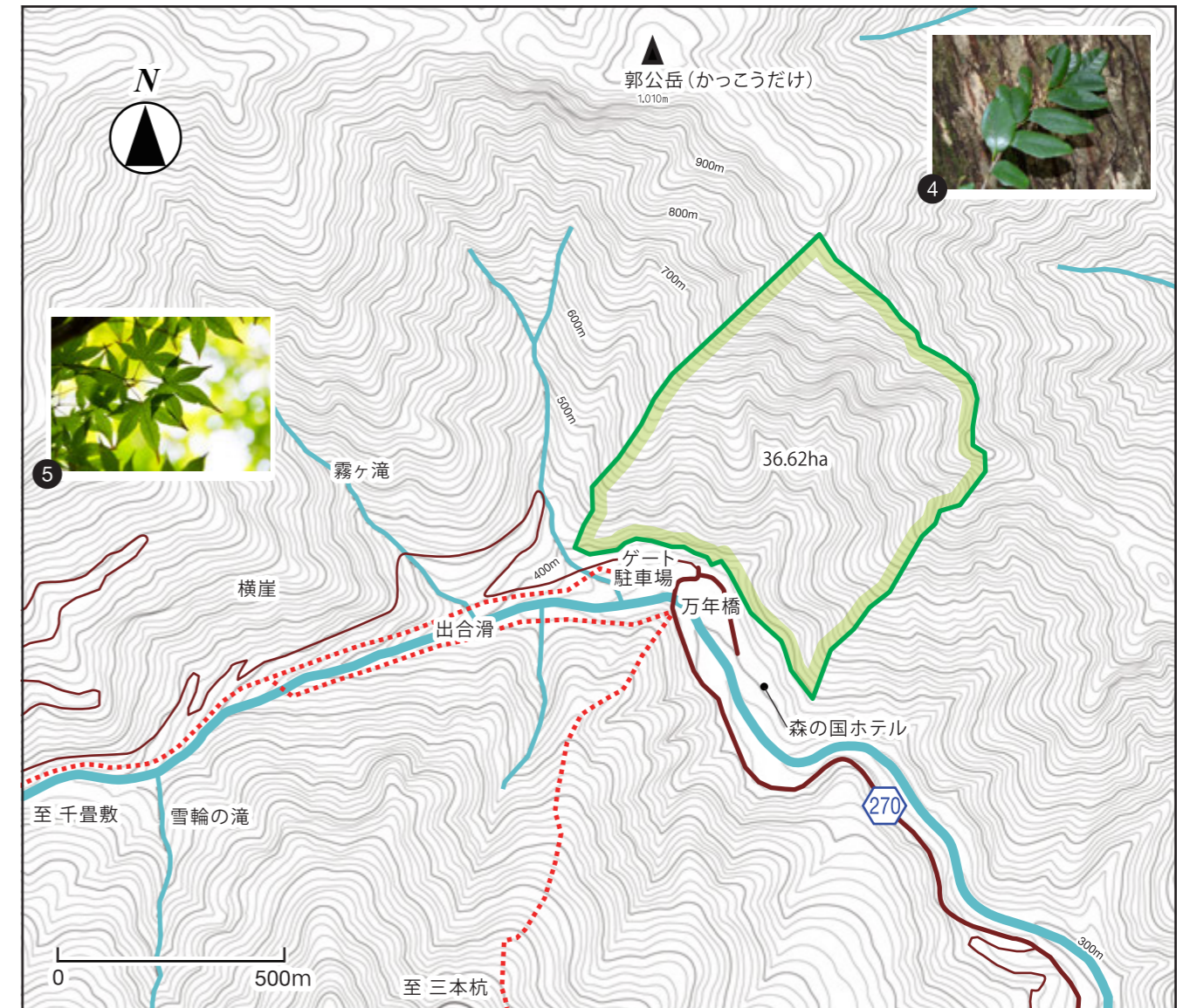


なめ ところ やま
**滑床山ウラジロガシ等
 林木遺伝資源保存林**

当保護林は、足摺宇和海国立公園の一角で、四万十川の支流でもある滑床溪谷の入口にあります。
 この森には、樹齢200年近いウラジロガシ、アカガシ、カエデ類を主体とする暖温带林が広がっています。



① 上空から見た保護林。四万十川の支流目黒川の上流に位置しています。林内にはウラジロガシやアカガシ、カエデ類(イタヤカエデ、イロハモミジ、ウリカエデ、ウリハダカエデ、オオモミジ、コハウチワカエデ、コミネカエデなど)が主に生育し、スダジイ、ケヤキ、アオガシ、イスノキなどの広葉樹も混じる多種多様な森林です。② ウラジロガシ。葉の裏がロウ質で白いのが特徴です。③ アカガシ。名前は材に赤みがあることに由来します。④ スダジイ。照葉樹林を代表する木で、初夏には薄黄色の雄花が密につき、遠くから見ると巨大なカリフラワーのように見えます。⑤ オオモミジ。代表的なモミジの一つで、秋には鮮やかな黄色や赤色に紅葉するため庭木としても植えられます。⑥ 紅葉の滑床溪谷。滑床溪谷は名前の通り滑らかな川床が見所です。保護林より上流には出合滑や雪輪の滝、千畳敷など独特の溪谷美を楽しむことができます。特に一番の見所は雪輪の滝で、高さ約80mの滑らかな岩肌を清流が雪の輪のような水紋を残しながら流れ落ちます。